

耕太くんと三木先生



丘 修三 文・絵

1

耕太くんはすごい。

このあいだ、ぼくんちに遊びに来たとき、お母さんが焼いたホットケーキを、五枚もたいらげた。ぼくと妹は一枚でおなかがいっぱいだったのに、五枚も食べて、「もう、ないの?」ってな顔をしていた。

学校の給食も、かならずおかわりをする。おかわりをするため、いそいで食べる。

ぼくがパンを一口かじったときには、耕太くんのパンは、もう、半分になっている。

ぼくがおかずを二、三口食べて、耕太くんのおさらを見ると、もう、なくなっている。

一番に食べ終わるから、おかわりも一番だ。

「耕太、もっとゆっくり食べる。いいか、三十回かんでから飲みこむんだ」

と、ネギみたいにはそい三木先生がいったら、「一、二、三、四、五……」と指でかぞえながら、もうれつな早さでアゴを動かし、「三十」で、ゴクンと飲みこんだ。

それでも、ぼくよりずっと早く食べてしまった。

おかわりがないときは、食べ終わってからのぼくのトレーを横目でじっと見てる。

ぼくがにがてなヤサイを、

「食べる?」

と聞くと、ニカッと笑って、コクンとうなずき、パクンと食べた。